

自立活動の授業づくりナビ

こんなときに使ってみましょう!



本研究で考える、自立活動の時間における、児童生徒の「できる」を増やす授業づくりについて、その考え方や進め方のポイントをまとめました。授業づくりの参考にしてください。

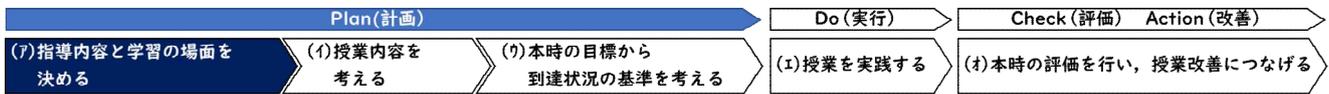
※ 自立活動の時間における、児童生徒の「できる」を増やす授業づくりについて、小・中学校の指導事例を示しました。この「授業づくりナビ」と併せて参考にしてください。

- [📄【指導事例1】小学校 自閉症・情緒障害特別支援学級\(1年\)](#)
- [📄【指導事例2】中学校 自閉症・情緒障害特別支援学級\(3年\)](#)
- [📄【指導事例3】小学校 言語障害通級指導教室\(2年他校通級\)](#)



令和3年度

佐賀県教育センター 小・中学校特別支援教育



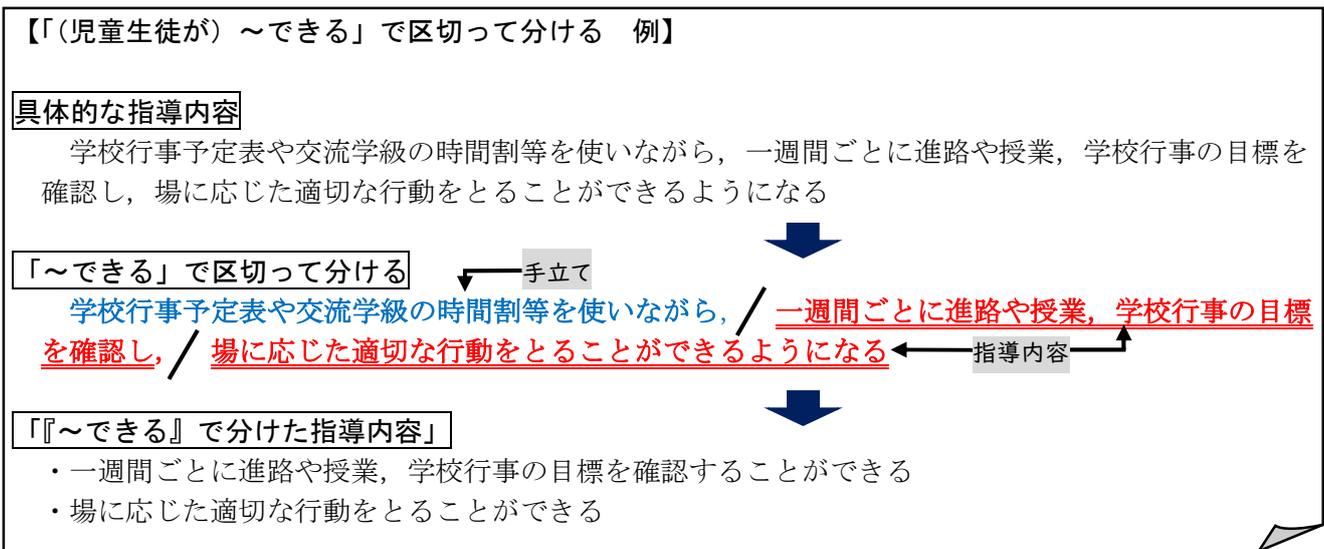
学習指導要領解説自立活動編の「流れ図」*1 や教育センター令和元年度個別実践研究「⑧ 具体的な指導内容例(障害種別)」*2 を参考に、具体的な指導内容を選んだよ。ここから自立活動の時間における授業づくりをどのように進めていったらいいのかな？

*1 : 学習指導要領解説自立活動編 P28 「流れ図」

*2 : 令和元年度個別実践研究「⑧ 具体的な指導内容例(障害種別)」

(ア) 指導内容と学習の場面を決める

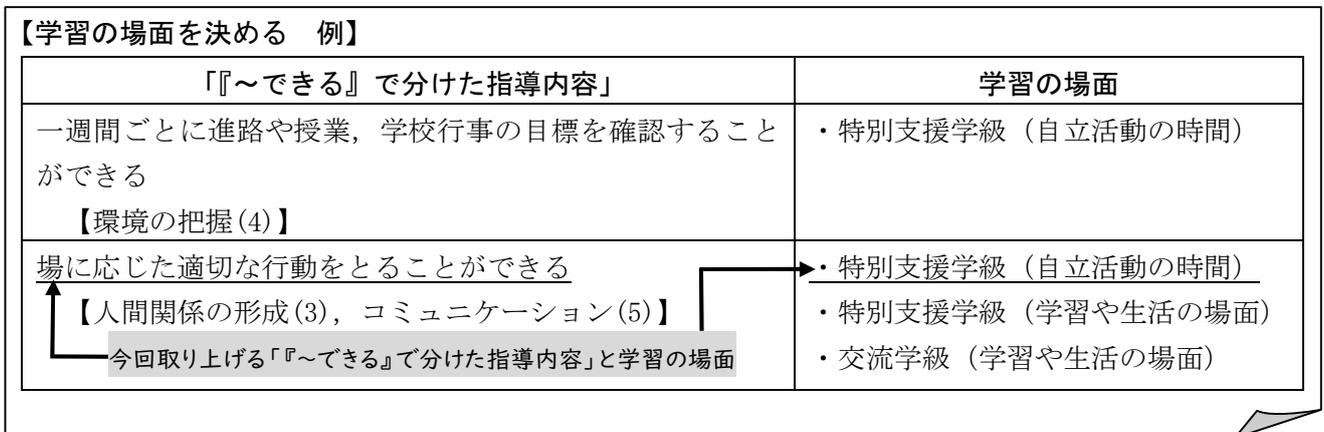
step1 選んだ具体的な指導内容を「(児童生徒が)～できる」で区切って分けます。



具体的な指導内容には、指導する内容が複数あったり、指導の手立てなどが含まれていたりする場合があります。指導する内容がはっきりと捉えにくい場合、「～できる」で区切って分けると、指導内容を整理しやすくなります。

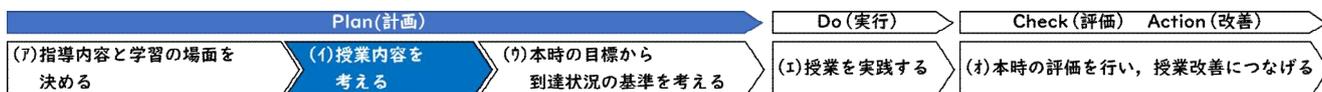


step2 【「～できる」で分けた指導内容】を、どの学習の場面で指導するのかを決めます。



学習の場面を決める際は、児童生徒にとって学習効果が高い環境であることや、各教科等との関連などを念頭に置いて考えます。





「『～できる』で分けた指導内容」と学習の場面を決めたよ。
次は、授業内容を決めたいけれど、どのように考えたらいいのかな？

(イ) 授業内容(学習内容, 題材と目標等)を考える

step1 「『～できる』で分けた指導内容」について、どのような学習内容が考えられるか、児童生徒の実態から考え、授業で取り扱う学習内容を選びます。

「『～できる』で分けた指導内容」から学習内容を考える際は、課題分析^{*3}を参考に、児童生徒がどのような力を身に付けることが必要なのか、細かく具体的に、複数思い浮かべます。



*3 参考：令和3年度個別実践研究「研究の実際 -1-」

【学習内容を考える 例】

「『～できる』で分けた指導内容」

「場に応じた適切な行動をとることができる」

課題分析

どのような力を身に付けることが必要か考えます

学習内容

- ・自分の言動について知る
- ・イライラするのは、どんなときか知る
- ・自分の気持ちを抑える方法を身に付ける



児童生徒の実態から、この学習内容にしよう。

他にも以下のような学習内容が考えられます

案1

- ・集団で遊ぶときのルールについて知る
- ・どんなときに、どのような感情になるかを知る
- ・イライラする前に、教師に報告する

案2

- ・自分の気持ちを友達や教師に話す
- ・起きた出来事について整理して話す

学習内容を考えていく際に、児童生徒の実態を基に、年間行事予定や自立活動及び各教科等の年間指導計画などとの関連を図りながら、児童生徒にとって最善と思われる学習内容を考えていくことが大切です。

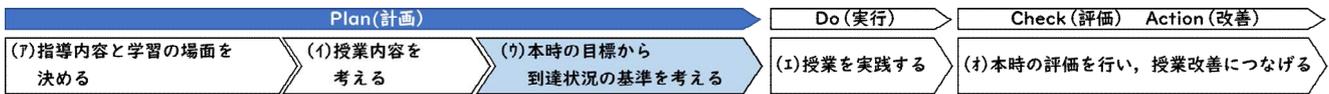


step2 選んだ学習内容について、題材と目標等を考えます。

選んだ学習内容について、児童生徒の実態から、題材や教材、指導方法等を考えていきます。

その後、題材の目標や指導計画、各時間の目標について考えていきます。





学習内容や題材、目標などを考え、本時の目標まで設定できたよ。
授業の中で、児童生徒が本時の目標をどのくらい達成したかを捉えるためには、どのようにすればいいのかな？

(ウ) 本時の目標から到達状況の基準を考える

- 本時の目標から、児童生徒の「できる」姿を複数思い浮かべ、児童生徒の実態に近い「できる」姿から段階的に積み上げます。

授業を実践する前に、到達状況の基準を決めます。
決める際は、まず、課題分析*3を参考に、児童生徒の「できる」姿を複数思い浮かべます。次に、「できる」姿を、スモールステップ*3を参考に、児童生徒の実態に近い姿から積み上げます。



*3 参考：令和3年度個別実践研究「研究の実際 -1-

【到達状況の基準の考え方 例】

本時の学習内容

自分の言動について知る

本時の目標

休み時間や授業中の様子を録画した動画を見ながら、自分の言動について考えたことをワークシートに書く

児童生徒の「できる」姿を、具体的な行動や、教師が観察できるより細かな状態として、複数思い浮かべます

課題分析

動画を見て気付いたことをワークシートに書くことができそうだ。

自分の言動について振り返り、考えたことをワークシートに書けるようになるといいな。

よいところと直したいところを自分で考えて分けることができるかな？
教師と一緒に考えることもありそうだな。

到達状況の基準

児童生徒の実態に近い姿から積み上げます

スモールステップ

自分の言動について振り返り、考えたことをワークシートに書く

自分の言動について教師と一緒に振り返り、考えたことをワークシートに書く

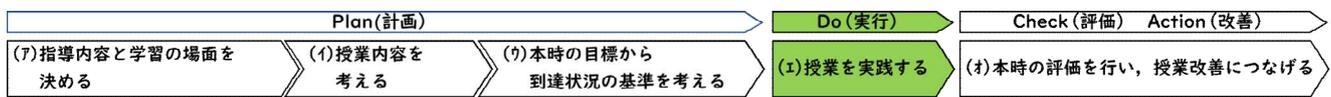
よいところと直したいところを自分で考え、ワークシートに書く

よいところと直したいところを教師と一緒に考え、ワークシートに書く

動画を見て気付いたことをワークシートに書く

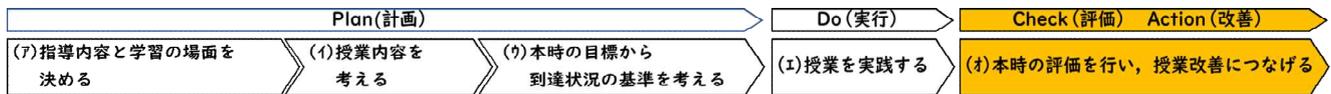
到達状況の基準を決めておくと、評価する際に到達状況が分かりやすくなり、目標の達成に向けて児童生徒がどのように変容しているのかを、明らかにすることができます。





(エ) 授業を実践する

(ア) (イ) (ウ) を踏まえて、授業を実践します 参考：令和3年度個別実践研究【指導事例1】～【指導事例3】



(オ) 本時の評価を行い、授業改善につなげる



授業実践の後、どのように評価をしたらいいかな？
児童生徒の「できる」をもっと増やすためには、どのように改善すればいいのかな？

step1 到達状況の基準から、本時の目標に対する評価を行います。

児童生徒の行動や教師が観察した児童生徒の様子と、(ウ)で考えた到達状況の基準を照らし合わせて、到達状況を判断します。



【本時の評価 例】

評価の基となる児童生徒の様子	到達状況
教師と一緒に動画を見ながら、自分の言動について「今の言い方はよくないなあ」「自分でそうしているとは気付かなかったなあ」などと言いながら、自分でよいところと直したいところを分けてワークシートに書くことができていた	よいところと直したいところを自分で考え、ワークシートに書く

step2 評価を基に授業を振り返り、本研究における6つの授業改善の視点に沿ってチェックし、改善の内容・方法を具体的に考えます。

【本研究における6つの授業改善の視点に沿った改善の内容・方法 例】

チェック	授業改善の視点	改善の内容・方法
	目標の設定	
	学習内容の設定	
	活動の場	
	教材・教具	
✓	教師の関わり	動画を見ながら、その時の状況や心情を教師と一緒に振り返ることで、本人の気づきや考えを深めるようにする
	その他	↑ 児童生徒の「できる」を増やすための工夫

評価を基に、児童生徒の「できる」を増やすことを目指して、授業改善について考えていきます。その際、本研究における6つの授業改善の視点に沿って、内容・方法を具体的に考えることで、授業のどの部分を改善したらよいか整理しやすくなります。



step3 前時の改善点を取り入れて、授業内容は妥当か、それに伴う到達状況の基準は合っているかなどを改めて検討（必要があれば、指導内容自体を見直すこともある）し、次時の授業を実践します。

参考：令和3年度個別実践研究【指導事例1】～【指導事例3】